

清川村立清川幼稚園

研究テーマ：小学校教育との接続に向けて教育課程や指導方法の工夫について
～遊びを通した育ちと学びをつなぐ縦割り保育～

1、実践の目的

園児数が年々減少傾向にある中で、集団で育っていく人間関係の形成や目的に向かって仲間と成し遂げる力等、各学年のクラスで過ごす中の経験だけでは育ちが難しい場面もあると予測される。縦割り保育を通して、年齢発達を越えた関わりの中で多様な体験を積み重ねることで、遊びを通して育まれる学びの連続性を確立し、小学校以降への学びとのつながりに着目して研究に取り組んだ。

2、実践の内容

(1)縦割り保育の充実

異年齢での関わりが増えることで、自分とは異なる考えに触れ、新しい考えを生み出す喜びを感じる等、思考力の芽生えが育まれる。また、楽しいと思う体験だけではなく、やってみようとする体験や悔しいと思う体験等、挑戦や葛藤の体験も必要だと感じ、活動内容の充実を図った。

また、職員の資質向上を目指し、他園との研修を行う等、保育参観や意見交換等の場を設けスキルアップに努めた。



みんなでどろんこ
楽しいな！

(2)学びの連続性を踏まえた幼小連携

架け橋プログラム実施に向けた足がかりをつかむ為、入学したばかりの一年生の様子を参観し、幼児期の遊びを通した育ちと小学校での学びとのつながりを見だし、理解を深めた。また、小学校や保育園の先生方に園内研修にご参加いただき「小学校教育との接続について意識していること、課題と感じていること」について協議をし校種間研修を行った。

協議テーマ

「小学校教育との接続について
意識していること、
課題と感じること」



(3)子育て支援

初めての集団生活となる幼稚園生活に、不安感を抱く保護者も少なくない。そんな中、コロナ禍で制限も多く、園児や保護者の交流の機会が減少し、孤立感を感じる保護者もいた。幼児期の育ちには保護者の理解と信頼が必要不可欠である。生涯にわたる人格形成の基礎を培う幼児期に“遊びを通した学び”を育むことへの理解を深めると共に保護者同士の交流の場となるよう、講演会を開催した。

講演会テーマ①

「わらべうた遊びを通して
親子のかかわりから育まれるもの」



わる心の芽生え、自分の思いを言葉で伝えたり、表現しようとする姿、自ら考え行動し役に立つ喜びを積み重ねることによる思考力の芽生えや他にも自主性・自立心の育ちがあった。

また、園児だけではなく、異校種や他園との職員の研修では、互いに共有・共感することができ、保護者への講演会では共通認識を高められる等、今後の連携の深まりにつながるきっかけとなったと感じた。



講演会テーマ②

「幼保小中連携により
育む生きる力」

4、今後の展開

今年度の取り組みから見えてきた、縦割り保育の中で育つ力と各学年の中で育つ力を踏まえ、縦割り保育を基盤としながらもバランスよく保育を設定していきたい。

また、一人ひとりが輝き、十分に自己発揮できる環境を、職員間での“語り合い”から多面的に捉え、工夫や改善を行っていきたい。

3、実践の成果

縦割り保育の充実により異年齢で過ごす中で様々な友達と関わり、親しみを持つことで、遊びにも広がりが見えていった。年少児の園生活は、不安な思いから年上の友達を頼りにすることで、安心感へと変わっていった。年中児は、年長児が年少児のお世話をする姿を間近でじっくりと見ることで、真似をし、自分の力にしていく様子があった。年長児は、始めは戸惑いながらも、年長としての自覚を持ち、同学年の中だけではできない経験を通して育ち合う姿が見られた。育ちとして特に見られたのが、相手の思いを汲み取る等の思いやりや優しさ、いた

年長児

ずっとそばにいるから安心してね。
困ったことがあったら教えてね！

年少児

年少さんだけでは出来ないことも
年長さんがいるから出来たよ！



年中児

年長さんがお世話するの
上手だなあって見てたよ！